

# 震災の被害から復旧しました

3月11日の東日本大震災で、当院は病棟など一部の建物に被害があり、一部病室の使用を中止しておりましたが、お蔭さまで6月半ばにすべての病床が使えるようになりました。



独立行政法人 国立病院機構

## 村山医療センターニュース

### 理念

患者さまの視点に立ち、良質で高度な医療を提供します。

### 基本方針

- 患者の皆様の権利と意思を尊重します。
- 安全で優しいチーム医療を提供します。
- 倫理を重んじ高度で先進的な医療を提供します。
- 地域医療連携の促進を図ります。
- 骨・運動器疾患の臨床研究を推進します。
- 職員は研鑽に励み、健全な経営に努めます。

第41号  
2011.7

発行責任者 院長 臼井 宏





# 理学療法

リハビリテーション科 副理学療法士長

サギイケ 鷺池  
カズユキ 一幸

リハビリテーション科の理学療法部門について紹介させていただきます。

まず、理学療法とは病気、けが、障害等によって運動機能が低下した状態の人々に対し、運動機能の維持、改善を目的に運動や物理的手段（温熱、電気、水等）を用いて行われる治療です。

当院の理学療法部門は、平成23年4月1日現在、理学療法士長1名、副理学療法士長1名、運動療法主任1名、理学療法士22名、理学療法助手2名の体制をとっています。

25名のスタッフのうち6名が回復期病棟を中心に担当し、19名が他病棟の患者さまを担当しています。

当院の理学療法部門では脳卒中、脊髄損傷、整形外科疾患、内科疾患により日常生活に支障がある患者さまを対象に訓練を実施しています。

運動療法では、患者さまの日常生活の自立を目指して必要に応じて、歩行訓練や車椅子駆動の練習、基本的な日常生活動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり等）練習を行います。あわせて、そのときに必要となる筋力の強化、関節や筋肉の柔軟性の回復も行っています。

物理療法では、器具を用いて温熱で患部の血流をよくする、温熱療法を行っています。

また、腕や足の重さを吊りながら、力の弱い方でも運動を行いやすくするスリングセラピーなども取り入れています。

平成22年4月より、亜急性期病床の対応として、急性期後の患者さまを中心に、各スタッフが可能な範囲内で訓練時間の延長を図るなど、より密度の高いリハビリテーションを提供できるように努めています。

平成22年10月1日より、回復期病棟の365日体制に伴い、25名のスタッフが交代勤務制をとっているため、25名のスタッフ全員が平日にそろって出勤していることは、まずありません。そのため、各スタッフが、休みとなっている理学療法士の代行を行いながら患者さまの治療をしています。

理学療法スタッフ一同、より良い理学療法の提供に向け、日々力を注いでいます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



# 病棟案内

## 手術室・中央材料室

副看護師長 竹内 直枝

当センターの年間手術件数は平成21年が1009件、22年が939件、主に整形外科手術を中心に行っています。中でも脊椎外科手術が約半数を占めており、膝・股関節手術が約3割を占めています。またそのほか消化器外科・手の手術を行なっています。また、外来患者さまの日帰り手術や一泊手術も実施しています。手術室看護師の役割は、患者さまが手術されることになった場合その患者さまの入院から退院まで、他の医療スタッフと連携を取りながら関わらせていただいています。

「手術」となると、どんな手術をされるのだろうか、目は途中で覚めないだろうか、痛くないだろうかなど、患者さまは不安をたくさん抱えています。そこで私たちは、手術の前に術前訪問を行っています。病室の患者さまのところへ伺い、患者さまから得た情報をもとに、患者さまの体形や関節の動き等から手術中、無理のない体や手、足の位置の調整を行っています。また、手術に対する不安を伺い、問題解決への助言や意識のある手術（局所麻酔等）ではお好みの音楽を流したり、痛みの様子を伺ったりして患者さまの代弁者となり、苦痛や不安の軽減に努めています。

さらに、当センターでは平成21年より術中訪問を行っています。これは手術に対しての不安は患者さまは勿論、ご家族は「無事に手術が行われているだろうか」「いつまでかかるのだろうか」と不安を抱え手術が終わることをお待ちになっています。その不安を少しでも解消できるように手術開始時、終了時、また大幅に予定時間が過ぎてしまった時に、ご家族控室に伺い、手術が開始されたこと、無事終了に近いこと、また、やむを得ず延長している理由等についてをご家族へお伝えしています。

手術後は手術中の状態を病棟看護師へ申し送り、観察点等を伝えています。

私たち手術室看護師は、外来看護師・病棟看護師・医師・検査科・放射線科・その他事務部等全ての職員と連携を図り医療に携わっています。

手術後に行われる術後訪問も、全患者さまに対し実施できるよう、現在準備をしています。手術後患者さまの声を聴くことや実際患者さまの状態を観察し把握することで、私たち手術室看護師が手術中に行った看護が適切であったかを評価し、今後のより良い手術室看護へつなげていくことができます。

このように術前、術中、術後期を通して患者さまへ関わらせていただき、一日でも早く良くなっていただけるよう手術室看護師一同努力いたしております。



## ・・・ 転任のご挨拶 ・・・



ヤマダ アキラカ  
9病棟看護師長 山田 朗加

はじめまして。7月1日付で立川市にある災害医療センター副看護師長より昇任で参りました山田朗加（やまだあきらか）です。このたび9病棟に勤務することとなりました。9病棟は手術後のリハビリを強化する亜急性期病床を有する整形外科病棟となっております。手術を受ける患者さまの苦痛を可能な限り緩和しながらリハビリを進め、満足してお帰りになることができるように支援していきたいと思っています。どうぞよろしく申し上げます。



## ・・・ 新任のご挨拶 ・・・



ハセガワ アツシ  
整形外科医師 長谷川 淳

はじめまして7月1日より当院に配属になりました長谷川淳（あつし）と申します。出身は東京都三鷹市です。以前は福島県、山梨県などでも勤務をしておりました。自分自身も小さな頃からスポーツをしていたためケガをして整形外科を受診することが多かったです。多くの患者さんに笑顔での生活ができるよう協力していきたいと思しますので、どうぞよろしく申し上げます。



タケダ コタロウ  
臨床研究センター 生体機能制御解析室長 武田 湖太郎

はじめまして。6月6日より臨床研究センターに参りました機能・政策医療企画研究部 生体機能制御解析室長の武田湖太郎と申します。これまでは脳卒中患者さまの脳機能計測、動作解析などを行ってきました。村山医療センターでは主に患者さまの運動器機能の解析を行います。社会や患者さまに還元する研究・技術開発を進めていきたいと思しますのでどうぞよろしくお願い致します。

リハビリテーション科 理学療法士 <sup>タキノ ヨウ</sup> 滝野 陽

5月1日付けで新たに採用となりました、理学療法士の滝野陽です。日々学んでいく姿勢をもち、得られた知識を皆様に還元できるよう成長していきたいと思ひます。

リハビリをするなかで、もし疑問や不安に感じている点などありましたら遠慮なく聞いてください。皆様に満足頂ける治療を目指して行きたいと思ひます。

宜しくお願ひします。

リハビリテーション科 理学療法士 <sup>イノウエ トシアキ</sup> 井上 敏彰

5月1日より村山医療センターでお世話になっている理学療法士の井上敏彰と申します。理学療法室はいつも明るく笑顔や笑いに包まれています。そんな雰囲気の中、周りのスタッフの暖かい指導や色々な患者さまから、日々多くのことを学ばせていただいています。患者様が笑顔で退院できるよう、リハビリスタッフの一人として精一杯頑張つて参りたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

リハビリテーション科 作業療法士 <sup>コウセツ アキコ</sup> 幸節 亜希子

5月1日より村山医療センターにて作業療法士として採用されました幸節亜希子と申します。3年間の厳しい学校生活を終えて、無事に国家試験に合格することができました。晴れて作業療法士として働くことが出来るようになりましたが、まだまだ勉強不足で毎日必死で頑張っています。社会人を経てから資格を取りましたので、今までの経験も活かしながら仕事に取り組んで行きたいと思っております。どうぞ宜しくお願ひ致します。

3病棟 看護師 <sup>サトウ</sup> 佐藤 ひとみ

5月より3病棟に中途採用で入職しました佐藤ひとみです。以前は消化器外科で働いていましたが、首・腰・膝で悩んでいる患者さまと関わりたいと思ひ、村山医療センターを希望しました。慣れないこともありますが、今までの経験を活かして毎日笑顔で頑張りたいと思ひます。よろしくお願ひします。





# 東日本大震災災害派遣

## 東日本大震災に伴う看護師派遣に参加して・・・

手術室・中央材料室 高橋 美樹

地震発生後の3月15日、「水戸医療センターから応援要請がある。行ける人はいないか」と話がありました。「行こう。でも何が出来るかな」と思いながら、「行きます」と答えました。

水戸医療センターは、電気、水道、ガスは通っていましたが、エレベーターは止まり、患者さまも息を切らして階段を上っている状況でした。病院周辺地域の家は屋根が崩れ、道路はひび割れ、断水で1人あたり1日10ℓの水を支給されていました。患者の家族は洗濯も出来ず、ガソリンもなくて着替えが届けられない状況でした。

水戸医療センターでは、患者さまの搬送、看護、救急外来の応援を行いました。救急外来には、怪我などで受診する方の他に、糖尿病で内服している方が、食事が取れない状況なのに食前薬を内服し、低血糖で数名搬送されてきました。また、津波で浸水したいわき病院の患者さまが水戸医療センターに運ばれてきましたが、ほとんどの方が全介助を必要としていました。患者さまが来てもカルテが遅れて届くため、患者さまの疾患や、どのような治療を必要としているのかわからない状況でした。

災害時は、団結して医療を提供することや怪我の治療も必要ですが、疾病の治療を受けていた人の必要な治療を早く再開し、治療の中断や疾病の悪化を避けるためにも医療が行き届くことの必要性を痛感しました。

派遣では、私のできる看護を精一杯行なったので、少しでも皆さんの力になれていたら嬉しく思います。沢山の人の支えられて派遣に行かせて頂き、貴重な体験ができて感謝しています。

## 東日本大震災での災害派遣に参加させていただいて

9病棟 橋本 裕子

私は今回、東日本大震災で大きな被害を受けた福島県に、災害派遣の看護師として行かせて頂きました。期間は4月25日から28日までの4日間で、福島県立医科大学の医療チームと一緒に活動しました。主な活動は、浜通りの精神科病院をフォローするチーム、会津地方に避難している方の体調を見て回るチーム、県内の避難所を巡回してエコノミークラス症候群の検査をするチームに分かれ、今まで福島県立医科大学の看護師が行っていた活動を引き継いで行っていく事でした。

避難所生活の様子はテレビで見えていましたが、体育館で段ボールの仕切りを作って寝起きしたり、救援物資として配られる食糧も菓子パンやおにぎりばかりで、被災者の方々の過酷な生活を目の当たりにしました。

今回の派遣活動ではエコノミークラス症候群のチームに加わって被災者と関わりましたが、何か自分に出来る事はないかと強く考えさせられました。直接関わることは難しいのですが、今後も募金活動などを通し、今自分にできることをしていきたいと思います。



※筆者、中段右から2人目



# 看護の日のイベント

庶務係長 服部 聡

5月15日（日）10時から15時過ぎまで、今年度も「看護の日のイベント」をイオンモールむさし村山ミューに於いて開催させていただきました。開催目的は、①村山医療センターの医療・看護をアピールする②地域の方々の健康に対する意識の向上を目指す、ことです。白井宏院長を筆頭に医師・看護師・栄養士・薬剤師・ソーシャルワーカー・理学療法士・検査技師・放射線技師・事務の総勢56名の職員が参加しました。

当日の企画としては、身体計測コーナー・白衣試着コーナー・AED体験・感染予防コーナー・リハビリ体験（体力測定）・医療相談・栄養相談・薬剤相談・福祉相談を行いました。昨年と同様、やはり参加型のイベントコーナーは人気が高く、順番待ちする状態でした。当日は延べ666人のお客さまに参加していただくことが出来、大変盛況なイベントとなりました。

当日行ったアンケート結果を見ましても、「AEDを体験出来て良かった」、「子供のナース姿がかわいく、良かったです。ありがとうございます」、「とても良い企画です。たくさん開催して欲しい」等、開催した私たちにはうれしいご意見ばかりでした。

来年のイベントでもまた職員一丸となって、村山医療センターの医療・看護をアピールをしたいと、改めて思いました。





## 第11回市民公開講座『中高齢者に多い関節障害』を開催して

臨床研究センター長 町田 正文

5月29日の日曜日、午後1時より市民公開講座および健康相談を武蔵村山市民総合センターで開催した。当日は台風2号の影響による大雨のなか、これまでで最も多い聴衆が参加され、質問も多く、予定時間を1時間超過する盛況であった。村山医療センターでは骨・運動器疾患臨床研究センター開設以来、年2回の市民公開講座を定期的に開催しており、今回で11回となる。今回のテーマは『中高齢者に多い関節障害』であり、人口の高齢化の影響により誰もが経験する股関節、膝関節の痛みについて、関節の構造、痛みの由来から症状、治療およびリハビリテーションについての講演であった。お母様の症状が心配で来られた家族の方から、現在の症状や治療で不安を抱かれている高齢者の方々が多数参加されました。

臼井宏院長が専門の股関節について聴衆が理解しやすい説明での講演、続いて笹崎義弘臨床研究センター室長が膝関節を、星永剛理学療法士長が関節の痛みに対するリハビリテーションを聴衆が直ぐにできる予防法を含めて講演した。

日本は世界に先駆けて超高齢化社会を迎え、骨・運動器の障害を持つ人が増加している。骨・運動器の障害は死亡に直結しないことから、これまではあまり意識されることはなかった。しかし、骨・運動器疾患は50歳以降に急増しており、2007年のデータでは介護が必要となった主な原因のうち要支援となった人の1/3 (32.7%)、要介護となった人の1/6 (17.5%) が骨・運動器疾患や骨折・転倒によるものであり、最近ではその割合はさらに増加している。人の骨格は80年間健康に維持することは難しく、健康寿命を延ばすためには骨・運動器疾患の予防が必須である。今後さらに高齢者が増加することを考えると、一人一人が骨・運動器の存在を意識して生活していくことが重要であり、そのためにも意識改革が不可欠である。日本整形外科学会は、すでにロコモティブシンドローム（ロコモ）という新しい言葉を提案しており、多くの国民に知られている。今回の市民公開講座はその啓発運動の一環でもあり、意義ある公開講座となったものと思われる。



# 七夕会を振り返って

国立病院機構災害医療センター附属 昭和の森看護学校 二年 木下 啓太

七月一日から七月八日にかけて、村山医療センターにおいて実習で多くの学びをさせて頂いている患者さまに療養生活の中で季節感を味わって頂きたいと思い七夕会を開催させていただきました。私達二年生は、五月より、七夕会を計画する中心的役割を担い、一年生と一緒に三年生の助言を受けながら短冊や笹飾りの準備を行いました。一年生は、初めての学生活動だったので不安な様子でしたが、クラス全員で協力して準備することができました。

二年生は、六月の実習でお世話になった病棟に後輩を連れていく初めての機会であり、先輩としていつもとは違った新たな緊張感をもって七月一日、笹の飾り付けに伺いました。短冊には、「リハビリをして、歩いて退院したい。」「退院して、早く仕事に戻りたい。」といった様々な患者さまの願いが書かれていました。それを見て私達は、看護師として個々の患者さまの願いが叶えられるように看護を提供していきたいと思いました。特に玄関前の笹は、期間中に患者さまが作った折り紙や短冊の重さで笹が折れてしまいそうでした。入院されている患者さまだけでなく多くの村山医療センターを利用する方々に七夕会を楽しんでいただけたと感じ、達成感を感じました。

七夕会を通じて、患者さまと患者さまの家族の方々、病院職員の方々に喜んでいただけて本当に良かったと思いました。来年も多くの患者さまに喜んでいただける七夕会にしたいと思います。



# 「あなたの食事、野菜は足りていますか？」

栄養管理室 山田 直子

栄養相談をしていると、野菜や果物が不足している食習慣の方を多く見受けます。野菜をあまり食べていない方は、ご飯やパン、麺等の主食の量が多くなり、体重も増加気味です。「ご飯はあまり食べません！」と言われる方もその後で菓子の間食があったりします。

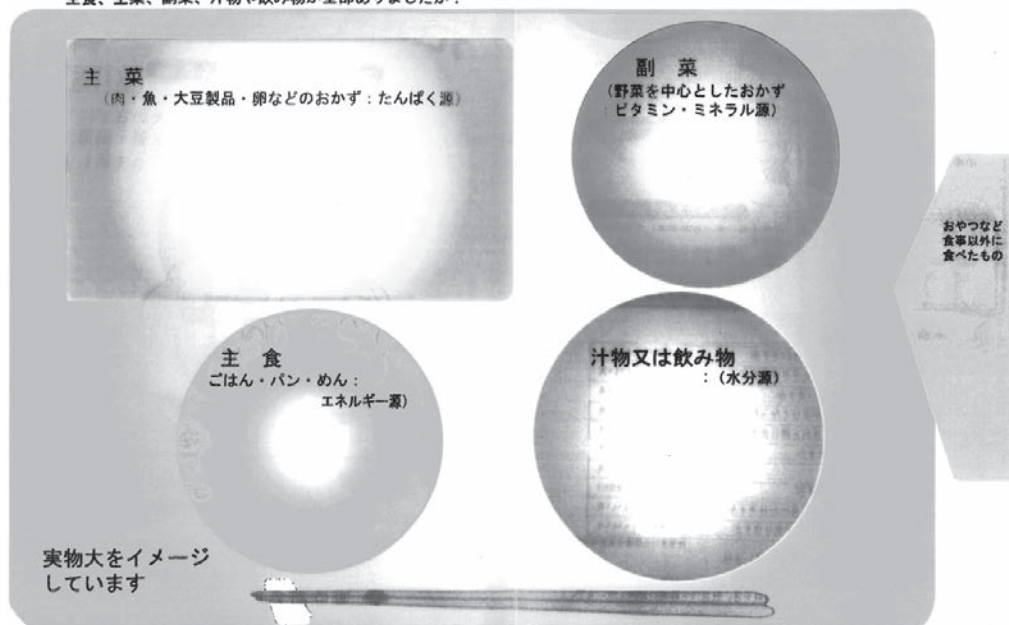
平成20年「東京都民の健康・栄養状況」では成人男性の33.3%、女性の17.1%が肥満で、体重を減らそうとしている人は、男性48.9%、女性52.3%でした。また、野菜類の平均摂取量は1日あたり302.5gで目標量である350gと比べて不足していました。中でも40歳男性は特に少なく233.3gという結果でした。

昨年ミリオンセラーとなった「体脂肪計タニタの社員食堂～500kcalのまんぷく定食」という本をご存じでしょうか？健康管理をする食堂の昼食メニューを紹介しています。食事の考え方として、基本のプレートがあり、一回の食事で主食（ごはん）・主菜（メイン）・副菜2品・汁物の計5品をそろえていること、食事の特徴としてエネルギー500～600kcal、旬の食材、噛みごたえのある野菜150～200gを取り入れ、満腹メニューという内容です。

あたり前のことのようにですが、食事の基本はやはり食品の組み合わせ、バランスが大事です。東京都多摩立川保健所作成「元気に長生きする食事」の冊子にランチョンマットの絵が載っていました（記載のため縮小）。毎食、食事の茶碗や皿などをのせて、食事の組み合わせを確認してみましょう。野菜料理の副菜は揃っていますか？食事は3食欠かさずに、主食・主菜・副菜・汁物又は飲み物をそろえましょう。積極的に動くことも忘れずに。

## あなたの食事（茶わんや皿など）をのせてみましょう

主食、主菜、副菜、汁物や飲み物が全部ありましたか？





3月11日に未曾有の被害をもたらした東日本大震災から4ヶ月が過ぎましたが、震災は当院においても多大なる被害をもたらしました。

3月中の計画停電の際には、手術や外来の診療体制も制限をせざるを得なくなり、建物・設備では、東病棟5階にある高置水槽2基からの漏水、壁のクラック、配管ずれ等々、建物の老朽化もあり補修箇所が予想以上に広範囲におよびました。

東病棟のエキスパンションジョイント部分、特に4階の9病棟の破損が激しいため、入院患者さま全員他の病棟へ転棟していただきました。5月2日より各病棟を修繕するため順次移動していただき、6月15日に終了しました。一時的な病床数減少による入院延期や病棟移動などで患者さまには大変ご不便をお掛けしました。

現在、各棟の補修工事を行っております。しばらくの間、ご不便をおかけしますが、復旧に努めておりますのでよろしくお願い申し上げます。

最後に東日本大震災により被害を受けられました皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地の1日も早い復興を切に祈念いたします。

業務班長 須藤

### 患者さまの権利と責任

1. 個人の人格は尊重され、安全で良質な医療を受ける権利があります。
2. 自分の受ける医療について、十分な説明を受けた上で自分の意思で医療の選択をする権利があります。
3. 自分の受ける医療に対し、不明な点は質問することができ、診療情報の提供を受けたり、開示を求める権利があります。
4. 個人の情報を直接医療に関わる医療従事者以外の第三者に開示されない権利があります。
5. 自分の受ける医療について、別の病院を受診したり転院することができます。その際、十分な診療情報の提供を受ける権利があります。
6. 自分の健康に関する情報を正しく提供し、また他の患者の診療に支障をあたえず、医療従事者と協働して医療に参加する責任があります。

### 臨床倫理指針

1. 患者さまの人格、信仰、意思等を尊重し、説明と同意に基づく患者さまの自己決定を優先します。
2. 患者さまのプライバシーを尊重し、守秘義務の遵守と個人情報の保護を徹底します。
3. 患者さまの尊厳及び人権に関わる医療については、臨床倫理委員会で審議を行い、方針を決定します。
4. 関係法規、ガイドラインを遵守し、検査・診断・治療・研究を行います。
5. 医療の発展のために積極的に臨床研究を行い、その実施においては倫理審査委員会において十分検討をおこないます。

## 平成23年度患者数の推移

### 【入院】（1日平均入院患者）

診療月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
合計	190.5	196.3	204.2										197.0

### 【外来】（1日平均外来患者）

診療月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
合計	211.4	216.5	202.9										209.9

# 外 来 診 療 担 当 医 師

H23.7現在

受付時間	診療科等	月	火	水	木	金	備考	
一般外来 初診 8:30 ～ 11:00 再診 8:30 ～ 12:00	内科	山 縣	山 縣 志 方	山 縣 志 方	原 田	杉 本		
	外科	(手術日)	瀬 川	瀬 川	瀬 川	※瀬 川	※第2金曜、第4金曜 の診察時間は 10:00～12:00です	
	整形外科	再診	臼井[関・整] 竹光[脊・整] 田邊[手・整] (午前のみ)	福田[脊・整] 藤吉[脊・整] 名越[脊・整]	塩田[脊・整] 武田[関・整] 八木[脊・整]	町田[脊・整] 金子[脊・整] 臼井[関・整]	笹崎[関・整] 長谷川[脊・整] 飯塚[脊・整]	黒字：側 弯 白字：脊髄損傷
		初診	交替制	交替制	交替制	交替制	交替制	
	リハビリテーション科	白 井	植 村	森	杉 山	交替制 第5金曜日は休診	第1金曜…森 2 …植村 3 …白井 4 …杉山	
歯科	宮 本	宮 本	宮 本	宮 本	宮 本	宮 本	予約制	

特殊外来 13:00 ～ 15:00 10:00～ 12:00	手の外来				田 邊		
	内科 リウマチ				山 縣		予約制
	整形外科 スポーツ外来(下肢)			笹 崎 第1・3週			予約制
	側 弯	斎藤(正) 第4週のみ			町 田 金 子	町 田 福 田 第2・3週	予約制
	骨粗鬆症				町 田		予約制
	装具外来 (リハ棟)	植村・森 白井・杉山(※午後)					予約制
セカンドオピニオン (整形外科)			○				予約制

整形専門分野  
(脊) 脊椎・脊髄  
(関) 股・膝関節・下肢  
(手) 手・上肢  
(整) 整形一般

## 診療について

診 療 日 月曜日～金曜日（祝日及び年末年始は除く）

診療受付時間 初診の方 午前8時30分～午前11時00分

再診の方 午前8時30分～午前12時00分

※急患は（整形外科）随時受付しております。

専門外来については医事窓口にてお問合せ下さい。

毎月初めに保険証の提示をお願いします。変更のあった場合はお知らせ下さい。

独立行政法人国立病院機構 村山医療センター  
〒208-0011 東京都武蔵村山市学園2-37-1  
TEL 042-561-1221(代) FAX 042-564-2210  
URL : <http://www.murayama-hosp.jp/>

## ちかま胃腸科外科医院

### 院長あいさつ

国立療養所村山病院（現在の国立病院機構村山医療センター）には昭和50年12月から昭和57年3月まで6ヶ月間の空白を除いて6年間奉職しました。実は、長崎から上京するに当って、国立がんセンターで研修しようと思ったのです。自分で研修先を調べ当時の仁井谷部長、西条先生に面接し、OKをもらえるというお



チカマ マナブ  
千 竜 学 院長

らかな時代でした。村山病院でも週1回研修日をもらえることになりました。当時の野町院長、古瀬外科部長には感謝の念が絶えません。私の後も後輩が村山病院勤務の傍らがんセンター研修がつづいたのは色んな意味でよかったと思っています。

昭和50年頃は胃の検査は、ガストロカメラ（マイクロフィルムを先端に装着して暗闇の中で光りをたよりにめくらで撮影する。）から光ファイバーにより直接胃内を見て撮影する胃ファイバースコープへの過渡期でした。胃Fを購入するとき、予算は1本しかない。側視鏡にするか直視鏡にするかと決断をせまられ、斜視鏡にすることにしました。今ではなつかしい思い出です。37年後の今、内視鏡は消化器以外でも急速に発展しています。私は昭和57年5月に開業しました。当地域の救急医療体制は十分でないため、救急医療を受け入れました。1人開業医では対処できない症例も多く、村山病院の各科、特に外科、整外の先生方には無理を言って助けてもらいました。当院の歩みは、村山病院なくしては存在しなかったと思います。

その後、独立行政法人となり予算面のしめつけ、更に、新臨床研修医制度のあおりを受け、人事面での不足となり、持っている医療資源を十分に発揮できないと仄聞しています。手の専門外来ができたとの事、開業医、市民にとって頼もしいです。厚労省は、在院日数の短縮化への誘導施策を行っていますが、限界も見えています。安心して家に帰れるまで入院できる病院を社会が要求してくると思います。今まで以上に紹介患者さんの受け入れをお願いいたします。



### 診療科

消化器科／外科／整形外科

### 受付時間

月・火・木・金 9：00～12：00  
15：00～18：00  
土 9：00～12：00

休診日 水曜日・日祝日・土曜日午後

住所 東京都武蔵村山市榎3-40-15

電話 042-565-1265